

平成26年度 上越市総合学習部活動報告

部長 佐藤真市（高志小学校）

- 1 研究主題 仲間とともに地域とともに確かな学びを創る総合的な学習の時間のあり方
上越市学校教育研究会総合学習部会では10月30日、31日に上越文化会館及び春日小学校・高志小学校で開催された新潟県小学校教育研究会指定生活科研究大会（全国大会を兼ねる）に参加し、自己の課題意識に沿った研修を行うこととした。



2 研究の概要

(1) 基調提案の骨子

新潟県では、生活科・総合的な学習の創設以前から多様な実践を通して、その在り方を追究してきた経緯がある。その成果と未来を生きる子どもにとって必要となる資質・能力などを踏まえ、目指す生活科・総合的な学習の方向性を以下の4点から提案した。

ア. 子ども理解の原則に立つ イ. 身近な地域とかかわり、地域への愛着や誇りを育てる ウ. 実感をともなった学習の実現を目指した単元を構想する

エ. 学びの広がりや深まりを生み出す合科的・関連的、横断的なカリキュラムをつくる

(2) 総括指導の概要 文部科学省初等中等教育局 教科調査官 田村 学 氏

授業のイノベーションは、「探究・協同」がキーワード。体験したことを表現することで、新たな体験、表現につなげ、探究として高めていくことが大切である。異なる他者との対話によって、新たな知をつくり出すことができる。

平成28年には答申、平成29年に改訂の予定である。協同的探究（インタラクション）と個別的探究（リフレクション）による知識の構造化を目指して欲しい。

(3) 春日小学校での授業公開

- 3年 発見！わたしの春日山…春日山探検で心に残ったことを振り返り、表現する活動。
4年 春日山の観光活動に携わる人々との出会い…観光活動を通して、観光客へのおもてなしを考える活動。
5年 食～米でつくる～…収穫した無農薬米で作る料理を検討する活動。
6年 創ろうふるさと上越の未来…まちづくり活動を紹介し、成果や課題を共有する活動。

【富山大学教授 松本謙一氏の講評】

確かな活動に裏付けられた子どもの発言や動きが見られた。長期にわたる単元構成で、自由度の高い活動を繰り返している。『願いや学び方の違う者同士が互いに認め合う』これが生活・総合の本当の意味での社会性ではないか。

(4) 高志小学校での授業公開

- 3年 発見！町のすてき…心惹かれた町の人・もの・ことについて追究し表現する活動。
4年 上越高志テレビマン…名人から学んだことを実際にやってみる活動。
5年 上越の郷土料理を調べよう…上越の食文化を発信する活動。
6年 上越の偉人の足跡をたどる…上越の偉人について発信する活動。

【上智大学教授 奈須正裕氏の講評】

活動を見守る教師には、子どもの姿や次に生じる出来事を予測し、見守ることを積極的に選択する意識があった。経験から抽出された意味は確かな学びとなる。自立した個同士が協同して自分たちのコミュニティの問題解決に当たれるのである。

3 研究の成果と課題

研究の成果を基にした2校の授業公開及び協議会への参加は、部員にとって大変有意義なものであった。次年度も、実際の授業をもとに研修を深めたい、他校の実践に触れ、優れた点に学びたいなどの意見が出されている。総合的な学習の理念とそこから生み出された方法（探究的な学習や協同的な学習）を意識するとともに部員の悩みや課題意識に沿った研修を進めていくことが必要である。